

# 三鴨小だより

学校教育目標

やさしい子 かしい子 たくましい子

# 第24号

発行日 平成31年2月1日

発行者 三鴨小学校長 廣田 昌英

## 練習は嘘をつかない？

持久走から始まった子どもたちの冬の体力作り、この時期は縄跳びが中心です。縄跳び検定や縄跳び大会を実施するなど、河内先生を中心に子どもたちに目標をもたせながら取り組んでいます。さて、その縄跳び大会なのですが、個人戦と団体戦に分かれています。そして個人戦はごく普通の縄跳びで、長い時間跳んでいた人が勝ち（ただし、最長5分間）なのですが、団体戦はふれあいグループによる長縄跳びなのです。1年生も前の人に続いてちゃんとリズムカルに跳べるの？私はそこが心配でした。そんなある日、校庭ではその1年生が体育の授業で長縄跳びの練習を行っていました。矢部先生と田中先生が縄を回し、両先生が子どもたちの背中を押して練習していたのですが、その時間のかかること……。前の子が跳んだ後、次の子は回る縄に合わせて首を上下しているだけでなかなか縄に入ろうとしません。その様子がかわいくておかしくて…。やがて背中を押されてやっと縄に入れても、出るときに縄に引っかかってしまい、すぐ中断。まったくもう！……じれったい限りです。本番は2月15日（金）。さあ、1年生、頑張ってね！やればできるところを見せておくれ！

## 実感を伴った理解！

久しぶりに風がやみ、穏やかな晴天となったある日、各教室を巡回してみました。すると、3年生の教室がもぬけの殻。体育かなあ、と思って時間割を確認したら算数。天気がいいから体育に変更したのかな？と思って窓から外を見てみると、3年生が普段着のまま長い棒とスズランテープをもって校庭中に散らばっています。何やってんの？と思って見ていると、2～3mのスズランテープの両端に棒をくくり付け、巨大なコンパスを作って地面に円を描き出しました。うん、これは傑作。あまりにもダイナミックでうれしくなっちゃいました。この授業、「円は中心から等しい距離にある点の集合」を実感させるにはとてもいい方法ですよ。中学校のややもすると無機質になりがちな数学とはひと味違った、なんとも人のぬくもりを感じさせる算数でした。子どもたち、楽しかったらうなあ。

## 忍耐

1年生の国語では「たぬきの糸車」という物語を勉強しています。木こり夫婦と狸のお話なのですが、矢部先生が子どもたちに「山奥で暮らしていた木こりさんたちは、冬になるとどうしてふもとに降りるんでしょう？」と問いかけました。いい質問ですよ。これまでの生活体験と思考力が試される質問です。数人の子が挙手をしました。そして指名された子は「寒いといろいろと暮らすのがたいへんだからです。」と答えました。ザックリと正解です。しかし、ほかの子たちが今ひとつ納得していないことを感じとった矢部先生、雪深くなってしまうからとか、食べ物がなかなか手に入らないからとか、丁寧に具体的な補足を加えてくれました。そしてみんなが納得したかのようになづき始めたそのとき、1人の男の子がこう叫びました。

「それくらい問題ないっしょ！」  
……はい、これまでの矢部先生の補足解説、台なし。また最初からもっと詳しく……。負けるな、矢部先生！

## 図書室神社

いつもステキな掲示物でみんなを楽しませてくれる大橋さん、その日は職員室の机に向かってやたら細かい作業をしていました。何を作っているのか尋ねると、「おみくじを引いた子にあげる栞（しおり）です。」だそうです。……え？百聞は一見にしかず、2時間目終了後の休み時間にさっそく図書室に行ってきました。子どもたちが本を借りに次々とやってきます。そしてそこには図書・掲示委員の子どもたちが待ち構えていて、本を借りた子どもたちに割り箸で作ったおみくじを引かせているのです。そして見事「大吉」を引き当てた子には、大橋さんお手製の（クオリティの高い）大吉栞がプレゼントされるのでした。しかも、副賞として「本を2冊借りられる券」まで付いています。おみくじを引くために何度も本を借りに来る子どもたちも少なくないそうです。当然ですよ。

図書・掲示委員の子どもたちは私にもおみくじを引かせようと思いました。しかし、「凶」を引かせようとする魂胆が丸見えだったのでやめておきました。でも、栞、欲しかったなあ。